優秀賞

いとこと出会って学んだこと

真鶴町立真鶴中学校二年　南部　愛実

世の中には目に見える障害と目に見えない障害があります。目に見える障害は白状を使っていたり車いすに乗っていたりと外見でわかりますが、目に見えない障害は、外見ではわかりにくく少し話しただけでもわからないことがあります。

私のいとこは、発達障害という目に見えない障害を持っています。発達障害とは脳機能の生まれつきの偏りにより、コミュニケーション、学習、注意、行動パターンなどに特性が現れ、日常生活などで困難が生じる状態のことです。

いとこは、歳は私と一つしか変わらないけれど、人形遊びやおうちごっこをして遊ぶことが大好きです。勝ち負けのある遊びが苦手で、負けてしまうと怒ってどこかへ行ってしまいます。また、自分が欲しいおもちゃがあると、相手のものでも勝手に取ってしまうことがあります。

私が小学生のときに「いとこは、なぜ他人の気持ちを考えられないのだろう」と思っていました。そのときはまだ、いとこが障害を持っていることを知らず、遊んでいて楽しいこともあるけれど、心のどこかでいとこに合わせて遊んでいることに不満を感じている自分がいました。私は、このことを母に相談しました。母は、「発達障害といって、周りを注意してみるとか相手の気持ちを考えるということが難しいんだよ。」

と教えてくれました。そのとき、なぜいとこがみんなと過ごすことが難しいのかを理解することができました。

そして、発達障害があるいとこと関わるうえで、大切なことは何だろうという疑問をもつようになりました。勝敗のあるゲームをしてはいけないのか、ものを取ら

ないようにものを使わない遊びをした方がいいのかなど、色々なことを考えました。そこで「勝敗がある遊びの中でも、チーム戦にして遊ぶのはどうだろう。また、ものを探しにいく宝探しゲームはどうだろう。」と考えました。実際にやってみると、個人で勝敗を決めるときよりも怒ることがなくなり、宝探しゲームでは、無理にいとこに合わせることなく、自分も楽しく遊べるようになりました。

発達障害は、はじめは目に見えなかったのでわかりませんでしたが、一緒に過ごしていくうちに目に見えるようになりました。さらに、どうすれば自分も相手も楽しい時間を過ごすことができるのかを考えることができました。

私は、いとこと過ごしていく中で、障害がある人だけでなく、様々な人が生きるこの社会では、どのようにすれば共に充実した生活を送ることができるかを考え、それを実際にやってみることが大切だと思うようになりました。世の中には色々な人がいること、一人一人が違うことを理解し、試行錯誤しながら互いに支え合っていくこと、これが私がいとこと出会って学んだことです。

みんな違うからこそ、その違いを認めて助け合う、そして自分たちも最大限に楽しめる社会をつくる。「共に生きる」とはこういうことだと私は思います。